

※文字の大きさは Meiryō UI /12 ポイント以上とし、行間・文字間、上下左右の余白は変更しないでください。
※具体的に示したい図、写真、表、グラフなどは、(写真 1) (表 1) などと文中に記載し、右ページに(写真 1) (表 1) などと表記の上、貼り付けてください。
※文章と図等を組み合わせながら作成することも可能です。各項目の枠の上下幅は変更可能です。
※いずれの場合も、必ず A 3 片面 1 枚におさまるように作成してください。ファイルサイズは 5 MB 以下としてください。

※事務局記入欄

【様式 2】

No. A-62

部門名： カリキュラム・マネジメント実践部門	エントリー名： 高松市立栗林小学校 仁科大成 平成 30 年度第 5 回中堅教員研修
活動名： 今こそ“トッカツ”！ ～思い合い 学び合い 高め合い～	
解決すべき課題： (1) “未来を拓く”子どもたちのために 予測困難な社会に生き、人生を拓いていく子どもたちに、社会の変化と主体的に向き合い、様々な課題をともに解決していく資質・能力を育むことが求められている。 (2) 教育課程改善における特別活動研究の“さきがけ”として 新学習指導要領の理念を実現するために、教育課程全体の改善を図るべく、学級活動に重点を置いた研究および実践を推進した。この取り組みが、今後の特別活動の研究および実践の礎となることを願う。 (3) 栗林の子どもたちを“読む” 高松市の中心部に位置し、児童数 1200 名という大集団の中で育つ子どもたちであるがゆえに身に付く調整力や受容性の反面、自分の能力やよさを認知しつつも、集団の中で自分を前に押し出す意欲に乏しく、埋没している多くの個性の存在。	
目標・方針： (1) 思い合い…思い合いの心が育まれる教育活動【支持的風土の集団づくり・スキルの習得】(図 1-①、②) (2) 学び合い…伝え合いわかり合う中で互いに学び合える教育活動【各教科学習】(図 1-③、④) (3) 高め合い…互いを認め合い励まし合いながら目標を実現できる教育活動 【道徳科、特別活動等を中心とした資質・能力の育成】(図 1-⑤、図 2)	
活動内容： (1) 資質・能力の育成をめざした指導計画の作成【カリキュラム・マネジメント】 ① 育成を目指す資質・能力【栗っ子パワー】(図 3) ② 【思い合い・高め合い活動プラン】を活用した教科等横断的な指導計画の実践(図 4) ③ 【授業構想シート】を活用した資質・能力の育成のための指導過程の明確化(図 5) ④ 【栗っ子パワーアップアンケート】を活用した P D C A サイクルの確立(図 6) (2) 見方・考え方を働かせた主体的・対話的で深い学び【学級活動を中心とした授業研究】 学級活動において、児童が主体的・対話的な学びを深めるために働かせる『視点』や『思考の方法』を吟味、精査し、効果的に用いる。(資料 1、資料 2、資料 3、資料 4)	
活動の成果： 学級活動のみならず、他教科の学習過程においても話合いのスキルは高まったものの、資質・能力の伸長が数値に反映するまでには至っていない。(知・技 0.4P、思・判・表 0.3P、人間性 0P)しかし、資質・能力育成のプロセスを構築、数値化し、PDCA サイクルに乗せたことこそ最大のチャレンジであったと考える。	
アピールポイント (アイディアや工夫)： (1) 『社会に開かれた教育課程』実現に向け、“本気”で挑んだ骨太の教育課程改善 ✓ 目の前の子どもたちの姿から！…本校の目指す資質・能力【栗っ子パワー】の明確化 (2) 特別活動研究推進“プロジェクト T”を中心とした、各リーダー主導のチーム栗林による協働研究体制 ✓ 実社会・実生活への窓口！…特別活動を中心とした授業研究 ✓ 栗っ子パワーを子どもたちの姿につなぐ！…見方・考え方をういた授業改善 ✓ 同じ景色を見よう！…中央や県の最新の研究の動向を教職員に発信し、理論や方法論を共有 ✓ 話合いだけじゃない！…実践の場としての係活動や集会活動、校内・教室掲示も組織的に編成	

図 1

図 2

図 3【栗っ子パワー】

栗っ子パワー

学校教育目標が目指す子どもの姿や、実態の分析から明らかとなった本質的な課題等を鑑み、本校の子どもたちに育成すべき資質・能力を位置づけた。

図 4【思い合い・高め合い活動プラン】

図 5【授業構想シート】

図 6【栗っ子パワーアップアンケート】

「社会に開かれた教育課程」を日常の授業にまでつなぐ、「カリキュラム・マネジメント」の視点に立った教育課程改善

特別活動を基軸とした、教科等横断的な指導計画のもと、「このような子どもたちに」「どのような力を」「どのような内容で」「どのような視点や方法で」「身に付けさせるのか」という文脈で授業を構想することで、資質・能力の育成の指導過程を明らかにするとともに、実践における児童個々の実態や、資質・能力の3つの柱への効果の特性などに関わる客観的なデータを得るためのアンケートを用いて、PDCA サイクルの確立を図った。

資料 1【提案理由】

資料 2【マトリクス】

資料 3【気もちリーダー】

資料 4【『4-1 卒業式』をしよう】